

2020 年度日本福祉文化学会第 3 回理事会次第

日時：2020 年 3 月 13 日（土）13：30～16：00
ZOOM 会議

定足数 11 名 出席者数 13 名 委任状 6 名 欠席 2 名

出席者：石田、雨宮、結城、永山、小河、小池、島田、小沼、脇坂、阿比留、前嶋、川北、マーレー、
オブザーバー：（監事）西野、
（次期評議員等）田島、篠原、空、小坂、園川、所、諸見、五十嵐、渡邊、塩田
事務局：岡村、中西、佐野、福山

1. 開会

2. 会長挨拶

石田会長より挨拶、沖縄大会の無事終了についての報告
新旧の理事、評議員の参加があるため、自己紹介を行った。

3. 議長選出 （石田 易司会長）

4. 議事録署名人の選出 （マーレー 寛子副会長）（脇坂 博史理事）

5. 協議事項

第 1 号議案 2020 年度日本福祉文化学会後期事業活動報告

1. 大会の開催について（石田 易司会長、諸見 里美次期理事）

- ・大会テーマ；文化がつなぐ 沖縄の多様性～過去・現在・未来から考える～
- ・日時；2021 年 2 月 27 日（土）
- ・会場；那覇セントラルホテル「プルメリア」

本学会としては初のハイブリッド型の大会として、佐久本実行委員長の尽力により、現地での参加者 46 名、ZOOM では 30～40 名の方の参加、実践学会賞は三重の佐伯さんを表彰した。オンライン表彰であったため、4 月に入り、マーレー副会長、石田会長により実際に授与に行く。研究発表は 5 題。マスコミの取材もあった。

2. 総会の開催について（石田 易司会長）

以下の通り、書面評決で総会を実施した。なお、審議結果については、ホームページに掲載済み。

- ・11 月 13 日（金）2020 年度総会（書面総会）案内、総会資料、議決権行使書発送
- ・11 月 25 日（水）議決権行使書締め切り
- ・11 月 26 日（木）開票・集計

・11月28日(土) 2020年度総会(書面総会)開催

3. ブロック活動

【北海道ブロック】 (小河 佳子理事)

新型コロナウイルス感染症の為、後期活動は中止とした。

【東北ブロック】 (小池 和幸理事)

後期については特に実績無し。

【関東ブロック】 (小沼 肇理事)

前年度に実施予定だった「第1回映画を通していのちの尊厳を考える」の関東ブロックイベントは、新型コロナウイルス禍で実施を延期、現在も未開催。

『私たちのメモント・モリ＝死を想う経験＝』(「わたしの最期」ブックレット)を読むについては、第1回を1/24にZOOMにて開催、第2回は3/28に開催予定。

【中部東海ブロック】 (平田 厚理事欠席のため、石田 易司会長より報告)

「名古屋発福祉文化元年」基盤に、機会あるごとに、中部東海ブロック管内への新規会員拡大を働きかけた。

中部東海ブロック会員の組織化の必要性を働きかけた。

「第30回学会全国大会」に「第1回中部東海ブロック大会」を付記し、これを機会に、今後、地方発福祉文化の創造として「第2回ブロック大会」の実現に向けた基盤づくりに、愛知県会員中心に努めた。

会員の連携の基礎作りとして「学会ブロック通信」の発行に務めた。

中部東海ブロックにおいて、17年前に「第13回学会静岡大会」を開催し、今日まで、地域性を活かした「福祉文化の創造」に取り組む「静岡福祉文化を考える会」の活動を関連事業として、「現場検証事業」「調査研究事業」「地域総合型研修事業」の3つの柱立ての地方型福祉文化実践活動の検証の取り組みを引き続き継続した。

「第19回静岡県福祉文化研究セミナー」に「学会ブロック研修会」を併せて開催した。

この活動を「見える化」するため「OUR LIFE」の機関誌を継続的に発行した。

【北陸ブロック】 (関矢 秀幸理事欠席のため、五十嵐 真一次期理事より報告)

(1) 地域福祉視察研修会

10月31日(土)に長岡市社会福祉協議会川口支所で見学、地域福祉事業の聞き取り、懇談会を実施し、会員4名参加した。

(2) 会員交流と情報交換のための「ZOOM」の利用検討

五十嵐真一新理事予定者の提案により、新潟県支部、会員相互の情報交換と打合せに利用のため、ZOOMの利用を進めるため、準備検討中。

(3) 退会会員との懇談会

3月末に新潟県内の退会会員との懇談会により、魅力ある学会とは何かを話し合っていく予定。再入会も依頼する。

(4)新潟県内会員交流会

R3年3月を予定したが、コロナ禍の状況により延期。少人数での懇談会を計画。

4月以降の予定についても、コロナ禍の状況を考慮しながら、計画を策定することとしている。

【関西ブロック】 (脇坂 博史理事)

新型コロナウイルス (COVID-19) の影響により、すべての活動を自粛した。

【中国・四国ブロック】 (松原 徹理事欠席のため、石田会長より報告)

2020年11月16日；岡山コンベンションセンターで開催された岡山市PTA会長・校長研修会にて「少年非行に対する地域社会」というタイトルで講演。

2021年1月；山陽新聞社、長泉寺、中・四国ブロックの共同事業にてCD制作。新聞購買数が減っていることに対する対策事業。その中でローカル新聞ならではの読者コーナー「ちまた欄」とのタイアップにより投稿文の中から優秀作品を選びメロディーを乗せCD化。

2021年2月；歯科医院との共同・健康保険適応事業「歯医者さんでヴォイトレ」。

【九州ブロック】 (雨宮 洋子理事)

施設の持っている知識を外部に出すことも視野に入れて講習会を実施したが、コロナ禍の影響で、6、7月のみの実施となった。

【沖縄ブロック】 (安里 和子理事欠席のため、諸見 里美次期理事より報告)

10月17日；内部研修：講話&実践：「フランス料理の味わい方」を開催。

12月19日；ミニ講演会&トークとして、会員の宮城知子氏を話し手に「今日のフランス事情を知る」をテーマに開催。

新春福祉文化記念講演会を全国大会に合わせて2月27日に開催した。3月20日には次年度の計画を話し合う予定。

4. 委員会活動

【総務委員会】 (前嶋 元理事)

以下の3点に取り組んだ。

1. 「会員アンケート」(入会者・現会員・退会者)による会員のニーズの把握
2. 会員のニーズに即した活動の検討・提案(現場会員の会費の見直し案)
3. お見舞い文の作成(*九州地方および岐阜県・長野県豪雨)
4. 現場会員増に向けた取り組み、若年層増に向けた取り組み

*2と関連したものとして準会員の 신설および会費割引案の検討

以下の通り、総務委員会より提案され、理事10名の賛成をもって承認された。なお、審議の中で出された

意見については、本項目の末に記載する。

個人会員 会費軽減のため、準会員の 신설と、会員増強のための紹介者会費割引（案）

			2020年度 紹介時期	2021年度 割引時期	2022年度～
一般会員（単独）	選挙権 ○ 被選挙権○	学会誌投稿○ 研究発表○	10,000	10,000	10,000
（紹介者のみ次回 会費を割引）	選挙権 ○ 被選挙権○	学会誌投稿○ 研究発表○	10,000	8,000	10,000
学生会員（単独）	選挙権 ○ 被選挙権○	学会誌投稿○ 研究発表○	5,000	5,000	5,000
（紹介者のみ次回 会費を割引）	選挙権 ○ 被選挙権○	学会誌投稿○ 研究発表○	5,000	3,000	5,000
準会員（単独）	選挙権 ○ 被選挙権○	学会誌投稿× 研究発表×	5,000	5,000	5,000
（紹介者のみ次回 会費を割引）	選挙権 ○ 被選挙権○	学会誌投稿× 研究発表×	5,000	3,000	5,000

実践家と研究者で会費を分けるのは、本学会の理念にずれるところが出てくる。新会員ではなく、紹介した会員が、割引される。連れてきた会員にメリットがあるように。

準会員については、規約の変更が必要となるため、総会での審議承認が必要であることが報告された。

以下、質疑応答の記録。

島田理事：2021年度に紹介して2022年度から実施

柰次期監事：全額を納入後、返金ということにはいかがか。

佐野・中西両事務局次長：事務作業が煩雑となる。

阿比留理事：年収スライド制を導入してはどうか。

中西事務局次長：個人情報扱うこと、何らかの証明書類が必要となってくる。

佐野事務局次長：まず、現在案を一度導入して検証しては。

脇坂理事：規約まで変更するとうまくいかなかった場合は、また規約変更があるのでは。

福山事務局次長：規約を残したまま、準会員の募集を中止するという運用で対応できる。

【企画委員会】（島田 治子理事・川北 典子理事）

新型コロナ感染状況の見通しが立たない中、コロナ禍での企画案が立てられず、活動はできなかった。

島田理事：時期の企画委員に引継ぎで伝えたが、コロナの状況下でできる企画を考えていく必要がある。

川北理事：企画委員会だけではなく、各ブロックとの連携があった方が動きがスムーズかと考えている。

【研究委員会】（結城 俊哉理事・阿比留 久美理事）

居場所研を隔月で再開した。次期理事に引き継ぐ。ブックレットを限定 500 部で発行した。5 月に居場所研として実施していく。

- ・ 9 月 6 日（日）10 時～12 時@早稲田大学&Zoom リモート併用
『私たちのメメント・モリ～死を思う経験～』の刊行記念・報告会
- ・ 11 月 14 日（土）17 時～19 時@早稲田大学
「居場所」研究会（以下、「居場所研」）の方針&テーマの打ち合わせ
- ・ 12 月 28 日（月）18:30～20:30@早稲田大学 戸山キャンパス
居場所研（テーマ）「居場所と詩（ポエム）」報告者：久保美紀、小山伸子、阿比留久美
- ・ 3 月 5 日（金）18:30～20:30
居場所研（テーマ）「居場所と弱さ」 報告者：久保美紀、結城俊哉、山田貴志
次回は 5 月 8 日（土）17:30～19:30 で開催を予定
- ・ 居場所研（テーマ）「居場所と身体」 報告者：真柄希里穂、内村さん（学会外）
現理事の任期は 3 月で終了する。スタートした「居場所」研究会は任期終了後も継続予定であるが、その位置づけについては新理事と相談したい。現理事からの提案としては、研究委員会に承認を得た「学会研究サークル活動」のような位置づけにしてはどうかと考えている。

【研究委員会承認済み研究プロジェクト】（永山 誠副会長）

—社会福祉士養成教科書『地域福祉の理論と方法』（中央法規 2015）を読む—
第 18 回 11 月 7 日、第 19 回 12 月 5 日、第 20 回 1 月 19 日 ZOOM で開催と 3 回実施
第 21 回は 3 月に実施予定予定
新型コロナの企画の進捗の確認と「これからの課題」についての懇談を行う予定。

【広報委員会】（徳田 真彦理事欠席のため福山 正和次期理事より報告）

通信は下半期の発行なし。新役員の紹介と全国大会（沖縄）の報告の通信を次年度発行予定。
ホームページは随時更新を行っている。メールマガジンについては現在 116 名が登録中。
第 8 期の役員メーリングリストを作成予定。

【編集委員会】（中畠 洋理事欠席のため塩田次期理事より報告）

- I. 機関誌『福祉文化研究』第 30 号 [300 冊] の刊行予定（2021 年 3 月末日）
出版社は昨年同様、近現代資料刊行会。刊行費は 40 万円前後を予定。
- II. 2020 年度機関誌『福祉文化研究』編集委員会開催スケジュール（全 3 回）
第 1 回編集委員会開催 2020 年 6 月 19 日（月）Zoom によるオンライン会議開催済
第 2 回編集委員会開催 2020 年 10 月 25 日（日）Zoom によるオンライン会議を開催済
第 3 回編集委員会開催 2021 年 3 月 26 日（金）Zoom によるオンライン会議か対面会議を予定
- III. 機関誌『福祉文化研究』第 30 号（9 月末日締切）への投稿状況
原著論文 4 本、現場実践論 3 本、資料 2 本、その他 1 本の計 10 本の投稿あり。
→査読の結果、現場実践論 2 本、資料 1 本、その他（評論）1 本、計 4 本掲載決定。

V. 「福祉文化アカデミア」の実施について（本学会編集委員会・研究倫理委員会共催）

・原著論文の掲載に向けての指導（但し、この事業と査読は無関係）

VI. 査読体制強化について

・査読者のリスト等を作成することを進める。

【福祉文化実践学会賞選考委員会】（マーレー 寛子副会長）

2021 年度実践学会賞の推薦が現時点で 1 名届いている。諸般の事情で推薦される方の情報収集を現在取り組み中である。今後の予定としては、今月中に推薦文を取りまとめ、選考委員会で審議をし、次回の理事会で諮る予定。

【研究倫理委員会】（永山 誠副会長）

前回理事会で審議をし、その後中野理事、石田会長とアカデミアについて調整を行った結果、査読との関係性や金銭授受等の問題をクリアするため、アカデミアを学会からは切り離して、ボランティアとして、実施していくこととする。そのため、理事会での審議は行わず、本件については、実施することの報告とすることとなった。

現在、学会ホームページに掲載されているアカデミアの案内についても、取り下げる。

アカデミアについて出された意見は以下の通り、

佐野事務局次長：例えば、大会時や ZOOM などで初学者などへの論文指導など。

結城理事：アカデミアに関わった人は査読者としてはさせない。ということにしてよいか。

永山副会長：ボランティアで関わる人についても匿名とする。そのため、どうするかは編集委員会で検討いただきたい。

阿比留理事：ML に連絡がないというメールがあったが、現状どうなっているか。

永山副会長：連絡をし、申込者の状況の聞き取りと趣旨説明を行っているところである。今後、相手の指導教授との指導の差が出ると問題であるので、特に慎重に取り組む必要がある。

島田理事：完全のボランティアであれば、学会から広報できないが、今後の広報をどうするか？

永山副会長：口伝えでの情報拡散になると思うが、申込者に真摯に向き合うとなるとかなりの時間がかかるので、大人数というわけにはいかない。何らかの際に年 1～2 回お願いをしたいと思う。

5. 会 議（事務局）（中西 久雄事務局次長）

2020 年度後期の会議の実施

1) 理事会・評議員会

(1) 第 2 回理事会

・日時；2020 年 11 月 28 日（土）10：00～12：30 ZOOM にて

(2) 第 3 回理事会

- ・日時；2021年3月13日（土）13：30～16：00 ZOOMにて

2) 三役会

(1) 第2回三役会

- ・日時；2020年11月27日（金）15：00～17：00 ZOOMにて

(2) 第3回三役会

- ・日時；2020年3月13日（土）10：30～12：30 ZOOMにて

6. 事務局業務（事務局）（中西 久雄事務局次長）

事務局業務について、以下の通り報告された。

- ・理事会・評議員会・総会の資料作成と印刷製本
- ・理事会・評議員会・総会の運営
- ・会員への福祉文化通信・福祉文化研究・各種資料・情報の発送
- ・「日本福祉文化学会からのお知らせ」「事務局だより」の発行
- ・会員名簿管理（入退会データ管理、所属先・連絡先変更管理）
- ・財務管理；年会費徴収・管理・督促、予算書作成・執行・決算書作成、監査を受ける
- ・理事メーリングリストでの審議依頼と取りまとめ
- ・各種委員会への協力 ・理事・会員・関連機関との連絡調整
- ・役員選挙に向けて選挙管理委員会と協働作業
- ・役員選挙結果に従い、評議員依頼と取り纏め
- ・書籍・物品管理 ・事務局会議

第2号議案 2021年度事業方針（案）について（石田 易司会長）

総会で承認されたが、前回理事会で具体的な施策の提示を3月の理事会にすることになった日本福祉文化学会2021年度事業運営方針について、石田会長より提示され、以下の質疑応答後、審議の上、承認された。

<審議応答>

島田理事：事業方針に記載されている具体的な提案まで承認することになるのか？

石田会長：具体例については、あくまで例であり、実際に動く際に、審議していく。

第3号議案 2020年度決算見込み（案）について（中西 久雄事務局次長）

別紙2020年度決算見込みをもとに以下の通り、説明された。

- ・会費収入が200万割れとなる見込みである。
- ・刊行費が未執行であるが47万程度の費用と送信料等5万程度が執行予定である。
- ・繰り越しが現在991千円だが、上記費用が今後必要となるので、単年度赤字となる。
- ・ZOOM等の利用により、理事会の交通費支出がなくなったがそれでも赤字となっている。
- ・会費の納入率、76%となっている。

以上のことが報告された。

第4号議案 2021年度予算書(案)について (中西 久雄事務局次長)

別紙 2021年度予算書(案)に基づき、以下の通り説明が行われた。

- ・ブロック数が9なので9ブロックで予算計上している。
- ・実践賞の経費が交通費を支給しないことになったので、5万円削減し、5万円の計上とした。
- ・理事会がZOOM併用型になることを念頭に旅費の削減、人件費も今年度実績を踏まえ、削減した。

資料では選挙管理費の簿外の15,000円が漏れていたため、追記したうえで、審議の上これを承認した。

第5号議案 2021年度福祉文化実践学会賞候補について (マーレー 寛子副会長)

福祉文化実践学会賞選考委員会の事業報告の通りであることが説明され、次回理事会での審議とした。

第6号議案 その他

ブックレット2号について

ブックレットの費用等は執筆者が負担することになっている。ただし、第1号については、委員会での取り組みであったことから、他の委員会の予算執行がなかったことから移用し、発行したが、販売の結果赤字になっていない。

永山副会長：(ブックレット2号について) 学会からのお金が出ないのであれば、お金の工面は執筆者で検討する。

刊行調整委員会では理事会での決定となっている。そのため、永山副会長よりブックレットの内容について次の通り、説明があった。福祉文化という用語を厚生労働省が使ったがその用語の意味合いを行政がどうとらえているかを分析した。これを行って以下の通り質疑応答が行われた。

結城理事：調整委員として、読んだが、中身は専門的で政治的な立ち位置を強調したアプローチであることから理解に苦しむ内容であった。福祉とは政治的な内容と対峙するものであったので、個人の意見として、「それでどうした。だからどうだ。」という内容だという思いなので、会の名前で出す以上、会長にもその意識を持っていただきたい。

石田会長：賛否両論があるのはわかっているが、議論のきっかけとなるという点で発行してよいのではないかと思う。

永山副会長：行政側の「福祉文化」という用語の使用の趣旨が明確でない状況である。

結城理事：推論と思われる部分が非常に多いと印象があった。

永山副会長：歴史学の推論の方法を用いている。

結城理事：研究委員会としての意見を集約して、永山さんが取りまとめたとなっているが、

他の研究委員の方はそれでよいのか。

前嶋理事：話の中ではかなり腑に落ちるところがあったのだが、文章にすると少しその話し合いの部分が受け取りづらくなっているのではないかと。

マーレー副会長：映画についての評論という形から、何に根拠を置いて語られているのかが理解できなかった。永山さんの個人の論文として出すのか、研究委員会に関わった方の共著となるのか。この内容で、福祉文化学会の名前を背負って出されるのはいいのかと思われる。

永山副会長：地域福祉の新しい見解が出されたことを掘り下げの中で沖縄に行きつき、福祉文化という用語の趣旨に行きついた。

阿比留理事：ブックレットではなく、永山理事の単著として出していただくことが適切ではないかと思われる。第1号については、10名以上の会員が関わり、作り出したものであるが、今回のものは永山理事の研究が深まったというものであったので、永山理事の単著が適切ではないかと考えられる。また、研究者であれば、自分が書いた原稿で名前を載せるというのが、普通ではないだろうか。

様々な意見が出されたので、理事に原稿を送り、読んでいただき発行について、再度理事会で議論を深める。

阿比留理事：内容を問うているのではなく、永山さんが一人で書いたものを複数人の名前を書くのはいかがなものかという提案である。

島田理事：調整委員会と理事会の関係性がわからない。論文で論が通らないからエッセイというのは話は違うのではないか。

永山副会長：たくさんの意見を出してほしい。

島田理事：論文を送るのはいいが、調整委員会との関係性がわからない。なぜ、このような議案がその他で出てくるのか。

以上を受けて、調整委員会で議論したうえで、次回理事会にかける。また、永山副会長から次期理事にも内容を確認いただきたいとの意見をうけ、石田会長より次期理事には、原稿を送信することとした。

6. 報告事項

報告事項1 2021年度第32回全国大会《京都》の進捗状況（川北典子理事）

10月30日、31日に京都の大谷大学において、2月の初めにメールにて関西ブロックにて、実行委員会を募集。メーリングリストを今週頭に作成した。一番の問題は、コロナの影響で大学の入構規制等も考えられ、学外者の入構禁止などもあり、確保できるかが未確定である。大学の方針が未確定である。これらのことから1日のみの開催、大学ではなく京都のどこかで開催など、様々な検討を行う。関西の実行委員会で検討後皆さんにお声掛けいただくことが報告さ

れた。

報告事項2 会員状況(2021年3月10日現在) (中西 久雄事務局次長)

・個人会員；223名 ・学生会員；11名(12月以降3名入会) ・団体会員；4団体

*2020年度末退会予定者；個人会員15名 学生会員；1名

退会者のみでなく、3年未納者(自動退会)も考えると第8期スタート時の会員数は200名を割るのではないかとの報告があった。

報告事項3 その他

- ・沖縄大会開催前の実行委員会での出来事について、個人を誹謗中傷するメールが学会のメーリングリストを通じ、一個人より発出されたことについて、メーリングリストという学会としての公的なシステムを一個人の一方的な主張の発信に使用されたことについて、会長より遺憾表明することが報告された。
- ・佐野事務局次長より会費の減額だけではなく、会の魅力向上にも取り組んでいかなければならないとの意見が出された。


7. 閉会

全議事の審議報告が終了し、理事会の閉会が宣言された。

- ・次回、理事会開催予定については、次期三役で調整の上、案内することとした。

2021年4月15日

議事録署名人

マレー寛子 

議事録署名人

脇坂淳史 